

# 災害対策や支援考えて

## AMDA 赤磐で講演、意見交換

「AMDA被災地間交流フォーラム」(国際医療ボランティアAMDA主催)が17日、赤

磐市下市の山陽老人福祉センターで開かれ、市内外から参加した約80人は講演や意見交換会などを通じ、大規模

災害への備えや復興支援について考えた。

岡山経済同友会の松田久代表幹事が、南海トラフ地震の発生時に岡山が支援拠点として果たす役割をテーマに講演。「太平洋沿岸に比べ被害が少ないと想

定され、被災者の受け入れや救援物資の備蓄基地にふさわしい」と指摘し、「経済界も行政と連携し、物流の維持や物資確保などに貢献したい」と述べた。

続いて、宮城県気仙沼市の商店街代表が、東日本大震災で壊滅した商店街を、災害公営住宅と一体的に再整備し、地域に人を呼び戻そうとしていることを説明。高知県黒潮町の職員は、第三セクターの缶詰工場を開設して備蓄食料の確保と産業振興を兼ねた取り組みを進めていることを紹介し、「防災関連産業を盛んにすることで、地域を守るとともに町おこしにもつなげた」と話した。

赤磐、備前、総社市の各市長と、岩手、宮城、福島、徳島、高知

災害への備えや復興支援について考えたフォーラム



県内の自治体職員や住民団体の代表らによる意見交換会もあった。(伊東圭一)